

2013年3月12日

国土交通省 利根川上流河川事務所
所長 須見 徹太郎 様

行田ナチュラリストネットワーク
代表 橋本 恭一

ふるさと創生クラブ
代表 今村 武蔵

熊谷の環境を考える連絡協議会
副会長 新井 千明

全国環境保護連盟
岩田 薫



利根大堰周辺における掘削工事と環境対策の進め方に関する要請書

私たちは、利根大堰周辺の治水と環境が調和した掘削工事の進め方に関し、昨年9月10日に要望書を提出しましたが、12月10日に何の返答も示されない中で検討会の日程調整が行われたため、要望書で要請した「掘削工事計画（案）」を事前送付することなどを求める文書を12月20日に改めて提出しました。

その後、年度末の3月に入って資料送付と共に3月中の検討会開催のための日程調整表が私たちに急ぎよ送付されました。私たちとしては、何度も繰り返し検討会で発言すると共に文書で意見を提出している通り、治水対策と環境対策を兼ねた掘削を行うことは賛成するものですが、真の湿地や砂礫地の再生に貢献する環境対策の検討がこれまで極めて不十分であり、きちんと調和のとれた進め方が行われてこなかった点の改善を強く求めています。

今回の送付された資料内容や検討会の日程調整についても、上記の問題点がほとんど改善されていないものと認識せざるを得ません。具体的に指摘するならば、私たちは各年度の掘削範囲を対象とした詳細な自然環境調査を実施し、その結果に基づいて希少種や外来種対策、湿地や砂礫地再生とモトクロス等との利用調整等に関する検討を行い、それを河川事業者が「掘削工事計画（案）」としてとりまとめ、事前資料として検討可能となるよう私たちに提示すべきことを要望してきました。それが、今回送付された資料では、従来から示されている総論的・広域的な内容がほとんどであり、動植物の分布状況についても植物や野鳥の名前が記された資料があるものの、掘削範囲を対象に年間を通じて行われた詳細調査結果なのか、なぜ植物と野鳥だけしか記されていないのか、今回の掘削範囲内にかつてキツネの巣穴やギンイチモンジセセリ等の生息が認められているが何も記されていないのはなぜか、等々の疑問があります。

また、対策として貴重種等を避けて掘削を行うことが資料に示されている一方で、掘削箇所への配慮事項として深く掘って低くする箇所や、水路とする箇所等がイメージ図とし

て記されていますが、この 2 つの整合をどのように図るのが非常に重要であるものの、
具体策が全くわかりません。

さらに、私たちが最も驚いたのは 3 月中旬のこの時点で、こうした基本的な協議が行わ
れている状況にもかかわらず、平成 25 年 3 月下旬から掘削工事を開始し 5 月までの様々な
工事の実施が既に予定されていることです。こうした前提で、もし工事発注が完了してい
るものであれば 3 月下旬の検討会の開催は、現計画の工事実施のアリバイづくり以外の何
物でもないのではないのでしょうか。

再度、整理しますが、私たちは昨年 9 月時点で要望書を提出しており、年度末までには
十分協議検討が可能な時間的な余裕がありました。それにもかかわらず、3 月に入ってから
の不十分な内容の資料送付と、年度末そのものである 3 月 25 日～29 日間での検討会開催の
日程調整は、あまりにもこれまでの経緯を軽視したものと受止めざるを得ません。

送付された資料には、環境対策の主要部分は「あくまでもイメージです」との文が添え
られていますが、現段階でイメージにすぎない状況である対策については、もし私たちと
協議が行われたとしても、3 月下旬からの工事実施の中では反映しようがないことは明らか
です。

以上の点から、再度、環境対策の具体的な進め方を明確にするよう強く要望します。

【 連 絡 先 】

全国環境保護連盟

代表 岩田 薫

TEL. [REDACTED]

FAX. [REDACTED]